



# 近藤じゅん子 通信 Vol.7

## 近藤じゅん子の提案により「被災者支援システム」の導入が決定!!

ついに「渋谷区版ネウボラ」が実現!  
「地域包括ケアシステム」もさらに充実!

第1回定例会・区議会公明党の代表質問より

平成30年2月22日

### 子育て支援

#### 渋谷区版ネウボラについて

**質問** これまで、わが会派は、渋谷区版ネウボラの構築を訴えてきました。今回ついに実現の運びとなり感無量です。

平成33年度に完成予定の神南分庁舎跡地複合施設(仮称)には、妊娠期から18歳までの相談機能をもつ複合施設として整備され、切れ目の無い相談支援体制が可能となる、画期的な施設が誕生します。

渋谷区版ネウボラをどのように進めていかれますか。

**答弁**(区長) 来年度は産前産後の支援を充実させます。「産後ケア事業」の開始、母乳相談の拡充、産後うつ対策の他、「要支援家庭を対象とした子どもショートステイ事業」を開始します。

平成31年度以降は、すべての妊婦に面接を行い、状況を確認した確かなアドバイスを行います。必要に応じて子育て支援プランを作成する等、着実に支援を進めてまいります。

**質問** 産後ケア事業を充実するとされていますが、どのように具体的に進めていかれますか。

**答弁**(区長) 一点目は、「宿泊型産後ケア事業」の助成をします。主に第一子を出産し不安を感じている産婦に対し、助産院等に宿泊してもらい、産後の不安を解消し、母体の回復を促します。

二点目は、助産師による母乳相談を拡充いたします。また、「卒乳」の相談回数を増やし利用しやすくしてまいります。

三点目は、産後うつ教育を充実させてまいります。パートナーと共に学び、早期発見につなげます。

**質問** 子どもショートステイ事業が新たに開始されますが、どのように位置づけていかれるのでしょうか。

**答弁**(区長) 虐待のリスクが高い状態が恒常化している家庭を対象に、子どもの安全を確保し、保護者に養育環境の改善について助言や支援を行うものです。

妊娠期から18歳までの子育てマルチサポートシステムを実現!

### 渋谷区版「ネウボラ」

妊婦面談	妊婦検診	パママ入門学級	宿泊型産後ケア	育児支援ヘルパー派遣「にこにこママ」	新生児・こんにちは赤ちゃん訪問事業	乳幼児検診 予防接種	母乳相談・乳房ケア 育児学級	ショートステイ	こどもテーブル	タブレットによるICT教育を含む学校教育の充実	若者サポート事業 子どもの心サポート事業
妊娠期		出産		産後		育児		学齢期~18歳			

### 福祉

#### 「地域包括ケアシステム」について

**質問** 公明党は一貫して、地域包括ケアシステムを推進してまいりました。柱となるのが、公明党が主張してきた「質の高い在宅医療」の実現です。

医療・介護の連携において注目すべきは、「つばめの里・本町東」における在宅療養支援

ショートステイ事業(10床)の開設です。医療対応が可能なショートステイ用ベッドを確保する意味は大きいと考えます。  
もう一つ、重要な施設が、恵比寿西二丁目複合施設(仮称)です。渋谷区初となる看護小規模多機能型居宅介護事業所が整備されることは画期的です。  
これら事業所を、渋谷区版地域包括ケアシステムの構築において、どのように位置づけ、今後の医療介護連携の強化・拡大を図っていくでしょうか。

**答弁**(区長) 在宅療養支援ショートステイ事業は、看護師を24時間配置して、医学的管理が必要な高齢者の在宅支援、及び介護者の負担軽減のため実施いたします。今後は規模を10床に拡充し機能充実を図るため、本年5月に開設予定の「つばめの里・本町東」に移行し実施します。

一方、看護小規模多機能型居宅介護事業所は、利用者やその家族等のニーズに対応するため、訪問、通い、宿泊を組み合わせて提供し、日常における在宅生活を複合的に支援します。

平成38年度に8施設を設置目標として、計画的に拡充を図ってまいります。

#### 「基幹相談支援センター」について

**質問** 平成30年度は、渋谷区障がい児福祉計画の初年度となります。基本理念を「誰もが自分ら

しく暮らせるまち・しゅば」として、基幹相談支援センターを開設することとなり、相談体制が強化されることとなります。

そこで、基幹相談支援センターの役割と期待される効果についてお伺いします。

(区長) 基礎相談支援センターは、地域の相談支援事業所のレベルアップを図るとともに、関係機関とのネットワークを作り、相談支援事業所との橋渡しを行います。

また、障がい者福祉課や関係所管とともに、教育や介護、医療など多岐にわたる困難事業などは、必要に応じてセンターの相談員が対応・調整し、必要に応じて困難事例なども扱うことで、障がいのある人と家族を適切な相談、支援に繋げてまいります。

## 渋谷駅周辺開発

### 渋谷駅周辺のバリアフリー化

**質問** 渋谷駅周辺地区バリアフリー基本構想が策定され、平成30年度予算においても、北側自由通路への補助等が予算化されています。

今後、公共施設はもちろんのこと、民間施設についてもバリアフリー化を求めていくことになりませんが、どのようにこの事業を推進していくのか、区長のご所見をお伺いします。

**答弁** (区長) 渋谷駅周辺では、2027年を目途に、渋谷駅周辺を東西南北方向に立体的につなぎ、誰もが歩きやすい歩行者ネットワークを形成します。

渋谷駅から徒歩圏のエリアにおいて行政施設だけでなく民間施設も参画して、一体的に街のバリアフリー化を進めるもので、まず、高齢者や障がい者などの区民と共にリードユーザーの視点で、バリアフリーチェックを実施し、施設ごとの課題をピックアップしました。

各施設管理者が提案する改善策の実施時期を定め、区が中心となって進行管理を行うことで、バリアフリー化を着実に推進していきます。



## 安心・安全

### 防犯カメラについて

**質問** 区議会公明党が児童の安全確保のため、防犯カメラ設置

を訴え、区立小学校全18校の通路に、90台の防犯カメラが設置されました。

その後、さらなる増設を要望した結果、新たに100台の増設と区立公園に24台の増設を実施することとなりました。

防犯カメラ設置事業を開始してから、区内における犯罪数の減少など効果がどれくらい出ているのか教えてください。

**答弁** (区長) 犯罪抑止の効果については、過去5年間の刑法犯認知件数が、毎年確実に減少していることから明らかです。

なお、平成25年における刑法犯認知件数は6250件でしたが、昨年は5400件にまで減少しています。

### 被災者支援システムについて

**質問** わが会派が要望してきた「り災証明」の迅速な発行が可能になる被災者支援システムも導入されます。そのスケジュール、内容について教えてください。

**答弁** (区長) 都が保有する「固定資産情報」と、区が保有する「住民記憶情報」を相互に利用することで、「り災証明」をスムーズに発行できるようになります。

本区は、他区市町村との「共同利用型」で導入し、いざ、災害が発生した時に、被害の大きい自治体と被害の小さい自治体とで「機能」を融通し合えます。導入スケジュールですが、新

庁舎移転に合わせ、平成31年1月の稼働を目指しております。

## ボランティアについて

### ボランティアについて

**質問** 渋谷区独自のボランティア登録制度の、今後のスケジュール、内容について、詳しく教えてください。

**答弁** (区長) 今年の5月から募集と登録を順次開始します。

具体的には、区内の競技会場周辺で、散策や回遊する来訪者への案内、暑さ対策などの『おもてなし』、イベント運営などで活動していただく予定です。

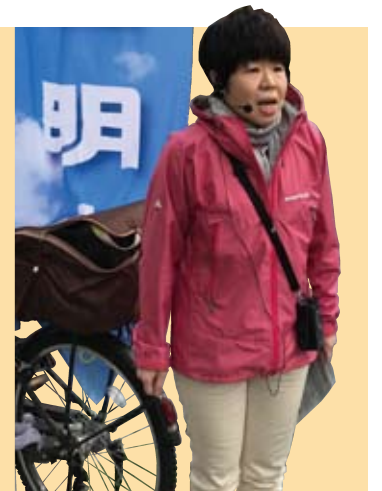
### 民泊について

**質問** 民泊については、その必要性は十分に認識できるものの、区民の方から不安の声があるのも事実です。

区民の皆様が安心していただけるよう、条例制定にかける区長の決意をお聞かせください。

**答弁** (区長) 「渋谷区住宅宿泊事業の適正な運営に関する条例」を制定し、区民の生活環境への悪影響の防止と、子供が安心して安全に生活できる環境を確保することとします。

貴会派ご提案のコールセンターの設置をはじめ、担当職員を増員するなど、適正な事業実施の推進に注力していきます。



ひとり一人を大切に、皆様の声を区政に活かします。

—— 区政に対するご要望、お困りごと、お気軽にご相談ください ——

渋谷区議会議員 近藤じゅん子

- 福祉保健委員会 副委員長
- 五輪・パラリンピック対策特別委員会

渋谷区議会公明党控室  
TEL. 03-3463-1036 FAX. 03-5458-4962  
携帯 090-2221-7507  
近藤じゅん子のブログ  
<http://ameblo.jp/junkon-junkon-junkon/>